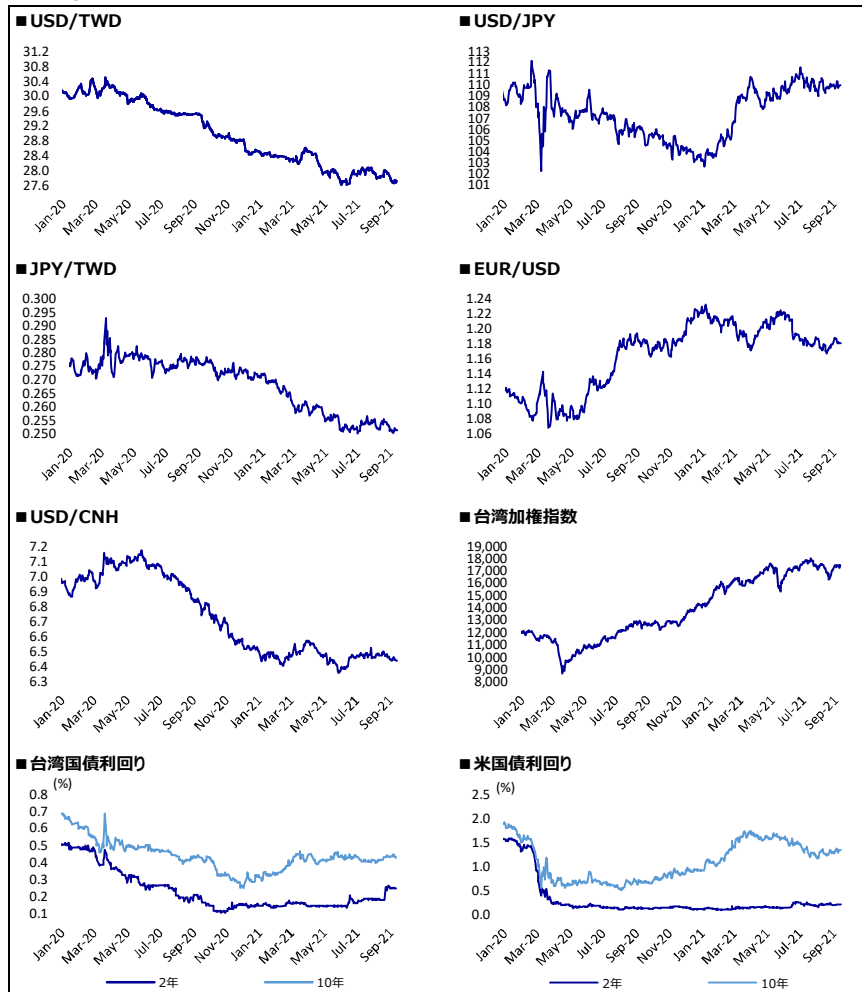


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは一時約3か月ぶりの台湾ドル高水準に。週初9/6は27.670でオープン後、前週に外国人投資家の株式買い越しが増えたことや、米雇用統計で非農業部門雇用者数変化が予想を大きく下回ったことから台湾ドル買いが優勢に。一時、約3か月ぶりの台湾ドル高水準の27.569をつけたが、引け前には戻された。9/7も27.60付近で推移したが、引け前に戻される形に。9/8は米金利の上昇につられてドルが買われたことや、台湾域内でのデルタ株のクラスターが発生したことから台湾株が下落したため、台湾ドル売りの流れとなり、27.74付近まで上昇。9/9はデルタ株への域内感染への警戒感が高まるものの、様子見相場となり27.70付近のレンジで推移。9/10は、バイデン米大統領と習近平主席と電話会談が行われたとの報道を受け、アジア通貨が全面高となる中、台湾ドルも買われ、27.64付近まで下落。9/11は台湾市場が振替営業日であったため、取引は閑散とし、終始27.70付近の狭いレンジで推移し、最終的には先週比ほぼ変わらずの27.710で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は276.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初9/6は109.76でオープン後、米雇用統計のイベント通過後で米国市場が休場の中、動意に乏しく、109円台後半の狭いレンジで推移。9/7は米国債の入札が翌日以降に控え調整相場から米長期金利が上昇するとドル円は110円台前半まで上昇。9/8は前日の流れを引き継ぎ、一時110.45まで上昇したが、軟調な株価につられ、110円台前半に下落。9/9はECB理事会を控え、ユーロがじり高となる中、欧州株が軟調なこともあり、ドル円は109円台後半に下落。また、米30年債の入札が好調で米長期金利が低下すると、一時109.63をつけた。9/10はバイデン米大統領と習近平主席と電話会談が行われたとの報道を受け、米中関係改善への期待からリスクオンの流れとなり110円近くまで買われたものの、その後は週末を控え、109円台後半での推移が続いた。最終的に先週比0.2%ドル高円安の109.92で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.500-27.770
先週は台湾域内でのデルタ株のクラスター発生から警戒感が高まる場面もあったが、一旦は感染状況が落ち着いており、今週はリスクオンの流れに戻り、台湾ドル高の流れを見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：109.00-111.50
来週に控えたFOMCを前に今週は米経済指標が相次いで発表されるため、内容が注視される。経済指標に左右される展開となるであろうが、特にCPIについては注目が高く、CPIの伸びが鈍化していない場合、早期テーパリングへの期待も高まるため、一時的なドル円の上昇には注意したい。

今週の予定

9/13 (MON)	
9/14 (TUE)	米8月CPI
9/15 (WED)	米8月鉱工業生産
9/16 (THU)	米9月フィラデルフィア連銀業況指数、米8月小売売上高
9/17 (FRI)	米9月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。